

この講演が始まる2時間ほど前、私は上の階で原稿のチェックをしていました。そしたら電話がかかってきて、どなたもいなかったのが私が出る羽目になって。

ある中小企業のオーナーの方から、「YouTubeを通して、今まで学んだ事がなかった聖書に触れて、我々ロータリークラブの中でも話題になってる。評判だよ。今度来て下さい。」「いいですよ。」「ところで、先日の天満橋バイブル倶楽部のYouTubeを見てみると、途中で“ピー”がやたら多くて聞きにくい。普通、“ピー”は一瞬なのに、2分間くらい“ピー”のまま。もしかして器械が壊れているんじゃないか？息子はテレビ局でドキュメンタリー番組を作って、カメラを操作している。東住吉に遣わすから、器械修理させてくれ。」

あれは壊れてません。わざとです。語っている内容を隠して、分からなくするために流しました。特に前回のは、北朝鮮の内部で起こっている事、金正恩体制に反旗を翻そうとする千里馬民防衛/自由朝鮮についての話でした。インサイダー情報をお話したので、YouTubeは誰が見ているか分からないし、私にその情報を提供して下さった方に迷惑がかかるかも分からない。それが1つ。

もう1つは、私、失言が多いんです。なので、それもピー。長い方は失言ではないです。そんな失言ばかり言うてたら、どんな人ですか。この場をお借りしまして、“ピー”はわざとです。これからはできるだけ、やばい事は言わないように、気をつけながらお話ししたいと思います。

でも、天満橋バイブル倶楽部を見返して思うのは、すぐに役立つ情報は、すぐに役立たなくなるという事。世界は次にどう動くのかという分析は、すぐにその時代が来るから、古い情報になってしまって、もう役に立たない。

だけど、聖書の預言は、どんなに時間が経っても、私たちを助ける力になります。特に今回、木曜日の集会で黙示録を見ていきますが、黙示録1章から22章まで順々にやるのは3回目です。1回目と2回目はクリスチャン対象。ある意味クリスチャン限定で語るのは易しい。既に聖書の常識・共通の土台に立っているのでツーカーで分かる。

今回は敢えて、クリスチャンではない方々のための黙示録講座をしたいと願っています。なぜか？黙示録の最後22章には、黙示録22:17 **いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。**いのちの水（永遠の命とか聖霊の事）が欲しいと言う人は、まだそれをもらっていない人・まだ救われていない人です。黙示録のメッセージを聞いて「今のままではいかんぞ!」と危機感を持った人は、「ただで受けるために、キリストのところに行きなさい。」これが黙示録の最後に出て来るメッセージ。

直接的には7つの教会に向かって語られていますが、その中に入入りしていたであろう、まだ神を信じず、キリストと繋がっていない人たちに、健康的な良い危機感を与えるための書物です。

神は本当にいる。死んだらゼロじゃない。最後の審判は本当にある。それを、黙示録を通して確信したら、次取る行動は、いかにして準備するかになるのです。耳に痛い事を言うかもしれませんが、それは私ではなく黙示録が言っている事。黙示録を書かした神が語っている事なんですね。

ざっくり黙示録なので、細かいところは見ません。クリスチャンには物足りないと思いますが、勘弁して下さい。

### 黙示録 1:1 イエス・キリストの黙示。

これが正式なタイトルです。私たちは『ヨハネの黙示録』と言いますが、それは人間が勝手につけた題名。黙示録自体は、この書簡を『ヨハネの黙示録』とは言っていない。『イエス・キリストの黙示』です。

黙示とはギリシャ語で「アポカルプシス」。ベールを剥ぎ取って中身を見せる事。

すなわち、今まで伏せられていたものを明らかにする/啓示する/隠されていた真理を明らかにする。

イエス・キリストの黙示には2つの意味があります。

私たちが知っているイエス・キリストは一部だけ。罪人に優しい言葉をかけ、姦淫の現場で捕らえられた女性に赦しを与え、重い皮膚病の人を抱きしめて癒す。それももちろんイエス・キリストの本質ですが、これが全てではありません。

キリストには裁き主の面があるのです。キリストの力・権威・賢さ。そして、最後の審判で見せる偉大な力を知ると震え上がります。私たちが知っている優しいイエス・キリストもキリストですが、そこで止まっている限り、本当のキリストを知った事にはならない。

この方は神です。神としての偉大さが、いかに偉大なものかという事が、黙示録を見ると分かるのです。という事で、イエス・キリストご自身を明らかにしたので**イエス・キリストの黙示**です。

もう1つの意味は、今まで伏せられていたこれからの事が、イエス・キリストによって明らかにされる。

### 黙示録 1:1 神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。

黙示はしもべたち、すなわちクリスチャンに示したもの。明らかにした事を示すというのは、分からせるために示しているんです。

時々「黙示録は難解で、頭こんがらがって、何書いてあるか分からへん! 難しい!」。

神様は、読者を混乱させるために黙示録を与えたのではなく、分からせるために、明らかにするために書きました。なのに難しいと言うのは、3つか4つくらい理由があると思います。

① 象徴が多い; 新約聖書の他の書簡と違って、例えば「**十本の角と七つの頭を持った獣が海から上がって来た。**」「えっ?! そんなん、どんな海洋生物?」と図鑑を調べる人は、間違った読み方です。

調べても、そんな生き物、出て来ません。

黙示録に出て来る象徴が何を意味しているかの説明は、その前後に「この象徴の意味はこうだ」と書いてあるのです。その説明を読まないで、自分の頭だけで理解しようとするので難しいとなる。

もし、黙示録の中にそれが見つからない場合は、黙示録以前に書かれた聖書の箇所で、その意味付けを調べると分かります。聖書は聖書で解釈する。これがとても大事です。

② 聖書を知らない; 聖書は旧約 39 巻・新約 27 巻。3×9=27 (さんく・にじゅうしち) と覚えたらよくて合計 66 巻。黙示録は 66 番目。なので、1 巻から 65 巻までの全ての書簡が、黙示録という結論に流れ込んでいます。つまり、「1 巻から 65 巻までが読者の頭に入っている」という前提で書かれている。

だから、聖書を読んだ事がない人が、いきなり黙示録に取りかかると、ピンと来なければならない箇所でもピンと来ないので。

旧約・新約聖書に精通している人が読むと、「この象徴は、あそこでも使われていたから同じ意味だ。」

聖書の中にある常識に基づけば、そんなに難しく考えずに解く事ができるんです。聖書を知らないから難しい。「YouTube を見ているから、聖書読まなくてもええわ。代わりに読んでくれるし。」良くない。

これから黙示録を説明するのに、旧約聖書をバンバン使います。この際、買って下さい。一生ものです。海外にいて日本語の聖書が手に入らない方は、電子図書で新改訳 2017 年版をダウンロードできます。是非、買って読んで頂きたい。

③ 偏見；偏見を持って読むから、これが邪魔する。先月、非常に学識豊かな方が面会に来て「東京で大きな会場を借りて、イスラエルに関する聖書預言成就の講演会をして欲しい」と。「当然、対象はノンクリスチャンですよ。ビジネスマンですか？ 学生？ 女性？ 主婦？」違う。対象はクリスチャン。「クリスチャンなら聖書を信じているので、書いてある通りに、イスラエルが元いた所に国を再建した、成就した事を知っているから、新鮮味がないでしょう。」ところが、そうじゃない。

教会が誕生して約 2000 年。2000 年の教会歴史の殆どで、イスラエルという国は存在しませんでした。ユダヤ人は AD70 年に世界に散らされて、ずっと国を持っていなかったのです。

そこで、あるクリスチャンたちはこう考えました。「確かに旧約聖書を読んだら、終末時代にはイスラエルが祝福を受けると書いてあるが、ユダヤ人は国を失くして散らされているし、今さら国を造るなんてあり得ない。イスラエルに約束されている祝福は、実は教会の事だ。教会は霊のイスラエルである。教会がイスラエルの後を継いだ。」

黙示録にはやたらとイスラエルが登場しますが、それを全部、教会と読み替える。

今、キリスト教専門書店などで黙示録入門書・注解書として出されている書物の殆どは、その考え方のとっついています。私はその立場には立ちません。字義通りに読むんです。

“教会”と書いてあるなら教会と読む。“イスラエル”と書いてあるなら、イスラエルの事やと思ったらい。 “144,000 人”と書いてあるなら、数字に何か意味を読み込むんじゃなくて、144,000 人と素直に読む。普通に読む。

聖書をそのまま素直に読まずに先入観で読むと、聖書が言っていない事を読んでしまいます。

実は私、今、左肩がめっちゃ痛くて。痛そうに見えないでしょ。話していると忘れるんですが、今鎮痛剤飲んでます。余りにも痛くてたまらず、病院に行ったら「もしかしたら腱が切れてる。一部、断裂している。」紹介状を書いて、一枚の紙を渡してくれました。

「5 月 2 日に、大阪鉄道病院に行って、MRI 撮って下さい。それから治療方針を立てますから。」

私はこれをどう解釈したらいいですか？ 5 月 2 日に、大阪鉄道病院に行って、MRI を撮ったらいい。それを「いや、字義通りじゃなくて、深い意味が秘められている。」

“5 月 2 日”は日付ではなくて Go (5) to (2) という命令形で「行け!」。“病院”は魂の癒しの場所を表していて教会の事。“鉄道”病院は昔は国鉄の病院。国鉄は今 JR。これは Jesus Road。

「大阪にあるイエス・キリストの教会に行って、MRI を撮れ!」“MRI”は未来(みらい)の頭文字。

つまり、「大阪の大きな教会に、未来の預言を聞きに行きなさい!」と言われたんだと思う。

それで「行って来ました」とドクターに言ったら、別の病院に紹介状を書かれると思うんですよ。

「だいが、いってはるな」と。ここ、また“ピー”かな。

これ、会話にならない。5 月 2 日は 5 月 2 日。大阪鉄道病院と言ったら大阪鉄道病院。MRI は MRI。

“教会”と書いてあったら教会の事。“イスラエル”と書いてあったらイスラエルの事。

“千年王国” / “千年”と書いてあったら千年ですよ。というのは、先程言ったように、黙示録は読者を混乱させるためではなく、分からせるために書いているんです。素直に読んだら難しくない。

しかし、妙な神学という偏見が最初に入っていると、その偏見に合致するように、ひねった解釈をするので、聖書をそのまま読み取る事ができないのです。

私はこの事について、何人もの方々と色々論争しましたが、平行線なので、私はもういいんです。

時代/実際の国際情勢が聖書を弁護するので、私が一々論破する仕事をしなくてもいい。私は皆さんにお話しする事に専念するだけでいいと思っています。

という事で、黙示録は字義通り・文字通りに読むと難しくない。明らかにするために与えられたのだから。

では、何を明らかにするのか？

**黙示録 1:1 神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、**

「起こるべきこと」から説明しましょう。これは、まだ起こってはいないけれど、必ずそうならなければならないという歴史の終着点の事。まだ起こっていない。しかし起こるべき事について書いてある。

という事は、黙示録の内容は未来についての預言なのです。

未来の究極のゴールに向かって歴史は動いている。そのゴールをひと言で言うなら「神の全世界/全宇宙の再建」。神は、罪によってメチャクチャになった世界を一新して、ピカピカに再建します。

21世紀はいつから始まりましたか？ 2000年ではないですよ。2001年1月1日からです。

この年にもものすごい大事件がありました。911テロ。アメリカ同時多発テロ。

ニューヨークの世界貿易センタービルにハイジャックされた旅客機が突っ込んで、たった2時間で110階建てのビルが垂直に崩れていった。世界貿易センターは全部で7棟のビルで、1番ノッポのビルが北タワーと南タワーの110階建て。1つのタワーで働いているビジネスマンは5万人。5万人って、過疎の村なんか…。そして、従業員以外の来館客が1日20万人。トイレは7000か所。ドアノブ4万個。1棟に。

これはミノル・ヤマサキという日系の建築家が造ったビルです。そこに旅客機が突っ込んだ時、ケロシンというジェット燃料が燃え上がり、鉄柱・鉄骨が高熱で溶けた。その結果、座屈（ざくつ）という現象が起きて、飴のように折れ曲がった塊が、下の階層に連鎖して沈むように倒れた時、周りにあった5つの棟も全部倒れました。2749人。日本人も23人。

無警告・無差別・大量殺戮という点で、弁解の余地のない絶対悪だと思います。

アメリカは非常なダメージを受けました。白昼堂々ニューヨークが狙われた。そしてペンタゴンも攻撃された。人間の体で言うなら、心臓の右心室と左心室を同時に射貫かれるようなショックです。

しかしすぐに、立ち上がるための計画が、練りに練られてスタートしました。2014年くらいだったか、1ワールドトレードセンターが建っているでしょ。このビルは541m。前よりもはるかに高い。

西半球で1番高くて、世界で6番目に高いと言われています。541mは1776フィート。

アメリカ人にとって1776は建国した年です。アメリカ独立の年。“いいな(11)なろうよ(76)独立国家”。つまり、「アメリカはビルを再建したんじゃない、アメリカを立て直したんだぞ!」というメッセージ。

今、ここは祈りの場になっています。実は、崩れ落ちた鉄骨が冷却されて固まった時、十字架の形をして

いたんですよ。その形がそのまま残っています。アメリカの心意気。

「いつまでも、うずくまっていなぞ! うなだれていなぞ!」

やられたら、前よりももっとスケールの大きな、美しい物を建てるという事で、やってのけました。

人間の歴史は、悪魔が人間に罪を持ち込んだために、メチャクチャなものになりました。

家族でも、社会・国家・歴史のレベルでも、互いに憎み合い・殺し合い・滅ぼし合い。何という悲惨な。

本当にバカだなと。人間のこの罪の背後に、悪魔という存在がいる事を黙示録は語っています。

この酷い墮落が、時代と共に更にもっと酷くなって、最も酷くなるのが「**患難時代**」。

罪によって台無しになった人間をもう1度再生し、この世界を新しくして、死も・別れも・涙も・苦しみも・叫びもない国を造る。これが歴史のゴールです。これは「なればいいな」じゃなくて、**すぐに起こるべきこと**。これがゴールで、これに向かって、歴史はグーッと動いているのです。

ところが、ひっかかるのは「**すぐに**」。今年 2019 年。黙示録が書かれたのは AD95 年。1924 年経ちました。

「講演会、すぐに始まります。もうすぐですよ」で 1924 年後って、あり得へん。死んでしまうやん。

「すぐしなさい!」どれくらいですか? 中華を注文して何分まで我慢できますか。30 分経ったら、もう出て行くかも分かりませんね。

1924 年経過。全然**すぐ**じゃない。これは「動き出したら速やかに」という意味です。

世界貿易センタービルの再建も、再建計画が実際に始まるまでには大変時間がかかりました。

遺族感情を配慮したから。2 つのタワーで、10 万人以上のオフィスが消失したのをそのままにしたら、10 万人分の労働者がニューヨークから流失する。それでは税収が激減するので、ニューヨーク市としては一刻も早く再開して、同じようなビルを建てたかった。

だけど、行方不明のままで、遺骨や遺体が出ていない人がたくさんいます。それなのに、地下を掘ってビルを建てる事は、遺族の感情がついていきません。遺族が納得するように計画してはやり直す。

それで非常に時間がかかったのですが、ゴーサインが出たら、あつと言う間にできました。

神は既に計画を持っていて、これが動き出したら、あつと言う間に進みます。

#### 黙示録 1:4 ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。

アジアとはローマ帝国アジア州の事で、今の地図ならアナトリア半島/現トルコ地方。

トルコには、東にもありましたが、主に西半分にはたくさんの教会がありました。

その中から、ある意図をもって、**7つの教会**をピックアップして、黙示録を書き送っています。

1 通をグルグル回覧するかもしれません。だけど、「7つに送れ」というのは、普通に読んだら、ヨハネは 7 回書いたんじゃないですか? 写すだけでも、臆が切れるかもしれない。

でも、それくらい取り組まれたら、黙示録が近くなるかもしれませんね。

教会とは建物の事じゃありません。聖書が言う教会は「エクレシア」。「エク」は「~から」。

「エクレシア」は「~から取り出されたもの」。この世界から取り出された者たちが**教会**。

クリスチャンの群れ/共同体。

ヨハネは**アジアにある7つの教会**に黙示録を書いて、その書き出しで挨拶をします。

手紙を書く時、いきなり本文に入るのではなく「こんにちは。ご無沙汰しています。ご機嫌いかがですか。」などの挨拶を書きますね。

彼が書いた挨拶は、**黙示録 1:5 恵みと平安があなたがたにあるように。**

なぜこの挨拶か？ この時の教会は、神からの恵みと平安を心底必要としていた時代にあったから。

これが書かれたのは AD95 年頃。何があったのか、背景を紹介したいと思います。

当時はローマ時代で、トップはローマ皇帝。その中にネロ (37-68/在位 54-68) という皇帝がいました。私が好きなスナック菓子はハバナロ。とても辛い唐辛子のスナック。皇帝ネロは非常に危ない男。暴君。彼の時代 AD66 年、ユダヤの国がローマに反乱を起こします。

すぐに、シリア総督が軍隊を率いてユダヤの国に入りますが、何と撃退されるのです。

ローマ帝国は、色んな民族をパワーでねじ伏せて成り立っていました。それが、ユダヤという決して大きくない地方にローマ軍が負けたという事になると、その噂がすぐに世界中に広まって、あちこちで反乱になるかも分からない。そこで、その報告がネロに届いた時、今度は絶対に失敗が許されないので、軍人の中の軍人と言われている人物を抜擢します。それがウェスパシアヌス (9-79/在位 69-79)。

当時、ローマが手を焼いていた地方がまだ 2 つありました。ガリアはシーザーによって、もう押さえていましたが、ライン川から東のゲルマーニャ地方 (今のドイツ) とブリターニャ地方 (今のイギリス/グレートブリテン島) は中々屈服しなかった。この難敵を両方とも屈服させたのがウェスパシアヌス。

彼は戦い方を知っており、任せたらユダヤも簡単に陥落させる事ができるというので、ウェスパシアヌスは命令を受けて、イスラエルの北から入って行きます。

彼には息子がいました。長男がティトウス (39-81/在位 79-81)。ティトウスはエジプトを通過して、イスラエルの南から入りました。北と南から挟み撃ち。そしてエルサレムで合流して、最終的に神殿を陥落させ、ユダヤ人を降伏させる計画。

ウェスパシアヌスは破竹の勢いで下って来ます。ところが、「これからエルサレム攻撃!」という時に、大変なニュースが飛び込みました。ネロ自殺! ユダヤ攻撃の命令者が自殺していなくなった。

その後、皇帝だと名乗る人物が出るけど 3 か月で失脚。細かな話は省略しますが、ネロが死んだ年、わずか 1 年間で、ネロを含めてローマ皇帝が 4 人倒れます。戦争している場合じゃない。

そこで兵士たちは「ウェスパシアヌスが皇帝になるべきだ。ローマ軍の中で 1 番の実力者だから、誰も文句を言わない。エルサレムはティトウスに任せたらいい。」それで、ウェスパシアヌスはローマに行って、皇帝の座に就きます。長男のティトウスが、最終的にエルサレムを陥落させました。

皇帝ウェスパシアヌスが死んだ後、次の皇帝はティトウス (在位 79-81)。

ティトウスは、将軍時代は非常な冷血漢。目的のためには手段を選ばない。非合法的な事も虐殺も、無慈悲な殺し方も何でもやる恐ろしい人。それが、皇帝になると、突然善人になった。ものすごい善人。

ティトウスは 3 つの事をしたと言われています。

①ローマ宮廷の中では、(ヒソヒソ声で)「あの人があなたのポストを狙ってますよ。」「アイツはクーデターを起こそうとしている」などの噂がいっぱい飛び交っていました。これが争いの元。密告禁止! これだけで、宮廷の中がすごくスッキリしたそうです。

“噂”は“口偏に尊い”と書きますが、中身は大抵尊くない。私も昔 2 チャンネルで、ない事ない事、もう見たくないです。しばらく立ち直れませんか。「アイツは怪しい」とか。弁護する意見もありました。「僕は実際に会ったけど、見た目ほど怪しくない。」それも…。見た目怪しいですか?

②ティトゥスが皇帝になった時、父ウェスパシアヌスが建設開始した円形劇場コロッセオが完成。それを記念して、100日間タダ見せ公演。テレビもラジオもインターネットもない、娯楽がない時に、拳闘士の戦いやライオンとの闘いやら。

③1番大きかったのは、火山が爆発してポンペイが埋没してしまった時、元軍人なので、部下に任せずに先頭切って現場に行き、非常に的確な采配を振るって危機を乗り越えて行った事。

ウェスパシアヌスとティトゥスは良い皇帝でした。彼らの前がひどかったし。

特に、ティトゥス時代のコインや本には「人類の恋人」と刻んであります。お口の恋人はロツテ。

しかし、“人類の恋人”ティトゥスは、わずか2年ちょっとで死んでしまいました。ポンペイの作業で、彼自身が熱病にかかってしまって。

次の皇帝は、ティトゥスの弟ドミティアヌス（51-96/在位81-96）。

彼こそが、ヨハネの黙示録が書かれていた時のローマ皇帝です。

偉大な父と“人類の恋人”の後で、やりにくかったと思いますよ。それに、彼は皇帝の器じゃなかった。在位は15年間ですが、特に後半は猜疑心の塊になって、家臣や貴族を次々に粛清し、財産を没収して国庫に入れていきました。

ドミティアヌスに関して伝わっている話です。当時のローマ将軍たちは占い師を抱えている事が多く、父ウェスパシアヌスも星占い師を抱えていました。

聖書では占いは罪です。聖書は、未来を覗き見ようとする事を禁じています。占いは罪。

黙示録は、未来の見るべきところをピックアップして見せているのです。

父ウェスパシアヌスの占い師が「ドミティアヌスは95年9月18日の第5時に死ぬ」と予言したのです。ばかばかしいと笑い飛ばせたらいいのですが、小学生の時「1週間以内に、3人に送らなかつたら不幸になる」みたいな不幸の手紙が来たらどうしてましたか？

ドミティアヌスはノイローゼのようになって、最終的に占い師を逮捕し、その日時を過ぎても自分が生きていたら処刑すると。

当日、自分の周りを親衛隊でガッチリ固め、自らも剣を持って完全武装。そして側近に聞きました。

「今、何時か？」側近はその予言を全く信じていないし、皇帝の心労をかわいそうに思い「6時でございます。」時間過ぎてる！良かった！安心して、武具を置いて裸になり、入浴したところで殺された。

実は、親衛隊の中に暗殺者が既に入っていたのです。この占い師から、いつ狙ったらいいか聞いていたという話も残っている。また、これには奥さんも噛んでいると言われてます。

ティトゥスは余りにも片端から、無実なのに殺していくから、やらなかつたらやられる。これは惨めです。

ここはピー音なしでいいです。北朝鮮そっくりと思いませんか？

金日成（キム・イルソン）時代に、ソ連の後ろ盾で宿敵を粛清しまくったので、2代目の金正日（キム・ジョンイル）の時には、敵がいなくても拘らず粛清が止まらなかった。失敗する度、部下に責任を押し付けるために粛清したから。

3代目の金正恩（キム・ジョンウン）はもっとひどい。韓国国家情報院から既に公表されている事ですが、張成沢（チャン・ソンテク/1946-2013）を処刑した時、カラシニコフではなく対戦車砲、4つ把にした高射砲で撃った。そして、ミンチになったのを野良犬に喰わせ、骨を火炎放射器で完全に燃やして灰にして。

なぜ、そんなに残酷な事をするのか？ある人が言うには、金正恩は後継ぎの予定ではなかった人。十分な準備をせずに、3男にも拘わらず、突然転がり込んで独裁者の立場になった。独裁者は惨めです。

という事で、ドミティアヌスは全ての人に「自分が神だ」と知らしめたい。全ての人々が持つ物はコイン。貨幣。それで、「ドミティアヌスは神の属性を持つ者である」と刻印した忠告のコインを発行して流通させ、自分を神として礼拝する事を全ローマ市民に強要したのです。

皆従うのですが、従わなかったグループが2つありました。1つがユダヤ人。もう1つが教会。この2つは「何と言われようが、真の神以外を礼拝する事はできん!」「ローマ皇帝であったとしても、支配者として尊敬はするが、神として礼拝を献げる事はできない!」断固として拒否したので、凄まじい迫害を受ける事になりました。

なので、この7つの教会は、もう大変な困難の中に置かれていたのです。恵みが欲しくてたまらない・平安が欲しくてたまらない状況にある彼らに「恵みと平安があなたがたにあるように。」その恵みと平安は、ヨハネ自身が提供できるようなものではありません。神が与えて下さるのです。

その神の事をこう言いました。

**黙示録 1:4** ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。今おられ、昔おられ、やがて来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から

1) 歴史の支配者；今おられ、昔おられ、やがて来られる方は、この世界を創造された父なる神。この方は常におられ、昔おられ、今もおられ、審判者としてこれから来られる方。

ヘブル語で神を「エフィエー アシエル エフィエー」と言います。

出エジプト記で、モーセが神に向かって聞きました。「あなたのお名前は何と言うのでしょうか?」すると神は「エフィエー（存在する）アシエル（関係代名詞）エフィエー（存在する）」と答えられた。すなわち、「あってある者」「存在するところの存在している者」（出エジプト記 3:13-14）

私たちは「あってない者」。今あっても、空気・水・お金・ごはん・愛がなかったら生きていかれへん。色んな物を補給してもらい、支えてもらって、かろうじて生きている。神は「あってある者」で、何にも依存しないで自己存在できる方。しかも、今おられ、昔おられ、やがて来られる方なので、存在しなかった時間が一瞬もないのです。世界の中に、そんなものはありません。

永遠のもの、他にありますか？ある人は宇宙が永遠だと。違います。

現代の宇宙論では、宇宙はある時から存在をスタートしたでしょ。ビッグバンとか言うじゃないですか。という事は、存在しなかった時があったんです。

「存在しなかった時が一瞬もなかった、完全の永遠の存在者。それゆえに、歴史の支配者である方が、あなた方の父なる神である。」

ある少年が、アメリカ大陸の横断鉄道を1週間かけてずっと旅していました。家族が誰もいなくて、1人ぼっちで席に座っているので、気になった人が「ガラガラヘビがいるような砂漠の中を通るし、トンネルばかりだし、怖くないの?」「怖くないよ。だって、運転士、パパだもん。」すごく怖いような所に行っているようだけど、運転しているのは私がよく知っているお父さん。そのお父さんは私を愛している。

「今、7つの教会は暗黒の中を潜っているように見えるけど、歴史の支配者である方は、恵みと平安を下さる方だ。だから気落ちするな。」

## 2) 7つの御霊；その御座の前におられる七つの御霊から

御霊は聖霊/神の霊/聖霊という神。7つの御霊とは、聖霊が7つあるという意味ではありません。

7は完全数。完全な働きをなさる方。7つの御霊の働きについては、これから黙示録で何回も出てきます。

1か所だけ見ましょう。

**黙示録 5:6** また私は、御座と四つの生き物の真ん中、長老たちの真ん中に、屠（ほふ）られた姿で子羊が立っているのを見た。それは七つの角と七つの目を持っていた。その目は、全地に遣わされた神の七つの御霊であった。

神の7つの御霊は全地に遣わされて、世界中のどこにでも入り込む。どんなに忘れられたような所でも、独房の密室の中でも、ローマのすぐそばであろうが離れていようが、困っている人のすぐそばにいて見守っている目のような方。7つの御霊は、苦難の中にある人のすぐそばに寄り添っている方。

3) イエス・キリスト；父なる神は永遠の存在。聖霊は7つの御霊と書いてあるように、完全な働きをする知恵の霊。イエス・キリストについては、5節に3つ書いてあります。

**黙示録 1:5** また、確かな証人、死者の中から最初に生まれた方、地の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにあるように。

①**確かな証人**：「父はこのような方です。わたしを見た者は父を見たのです。」イエスは地上におられた時証人として、神がいかなる方かを、どんな預言者よりもはっきりと完全に証言しました。

証人にはもう1つ意味があって、それは殉教者。7つの教会の中には、ドミティアヌスの迫害によって殉教する人たちもいた事でしょう。「怖いなあ。」でもイエス・キリストは、私たちよりも一足先に、十字架で死んで下さった。キリストは、自分が経験していない事が私たちに起こる事を許していません。キリストもまた、神の確かな証人として生涯を送りました。あの怖さや痛さや辛さについて、キリストは全部知っています。その方が、あなたを十分に支える力を恵みとして与えるのです。

②**死者の中から最初に生まれた方**：キリストは十字架にかかって死んだだけではありません。墓に葬られた後で、3日目に復活します。復活した後、約40日間にわたって弟子たちの前に姿を現わします。その次にオリーブ山に上り、そして天に帰って行かれました。

天に帰って何をしているのか？ 地上で苦しむクリスチャンのために祈り、執り成しをしているのです。「あなたの事を決して忘れず、あなたのために、特別に心砕いて祈っているよ。あなたに恵みと平安が与えられるように祈っているよ。その祈りは必ず応えられる。だから、うなだれないで。」

③**地の王たちの支配者**：キリストはやがてまた来て、地上の王の王としてこの世界に君臨する。今はまだ来ていません。キリストは「メシア」というヘブル語のギリシャ語化で、「油注がれた者」という意味です。どんな人が油注がれるのか？ 証人（預言者）・執り成す人（祭司）。キリストは大祭司の働きをしています。王が即位する時にも油が注がれます。すなわち「油注がれた者である預言者・大祭司・王」を表すためにメシアが使われている。キリストは、どの面から見てもメシアです。

そして王となった時、「今、あなたがキリストのゆえに受けている苦難に対して報いを与えます。必ず報います。今の苦勞は絶対に無駄に終わらない。なので、これを望みとして**恵み**を受けなさい。」  
**恵み**を受けた時の心境が**平安**です。

**黙示録**は**起こるべきこと**、つまり「神がこの世界を一新する事」についての預言で、「完全回復させた世界というゴールに向かって神が働いている」という事を書いています。

それがいつ始まるのか？ それは、キリストがイスラエルに地上再臨する事で起こります。その前に、地上再臨をゴールとする7年間の特別な時代が来る。この7年間は患難時代。人類歴史上最も苦しい苦難の時代。患難時代を通った後で、キリストの地上再臨がある。その再臨の時に起こるのがハルマゲドンの戦い。ハルマゲドンの戦いの後に千年王国。その後には永遠の新天地が始まります。  
患難時代・地上再臨の時に起こる事・千年王国はどんな世界か・その後の新天地はどういうものかについて、詳しく述べているのが**黙示録**なのです。

では、クリスチャンはどうなるのか？

**黙示録 1:3** この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たちは、幸いである。時が近づいているからである。

この預言のことばを朗読する者；単数形。

それを聞いて、そこに書かれていることを守る者たち；複数形。

黙示録が書かれた1世紀の教会は、聖書が1冊あれば、それだけですごい恵みだったと思います。新約聖書全巻が揃っているわけではありません。マルコの福音書の巻き物だけとか、ヨハネ書はあるがユダの手紙の巻き物はないとか。だから、朗読する人がいて、多分黙って聞いているんじゃないかと、写したんちゃうかなと思うんですよ。

数えてみたら、家に聖書が7冊もありました。贅沢な時代です。ここでしか読まれへんのやったら、必死のパッチで読むんちゃうかと。

時が近づいているからである。時間は前にしか行かないので、この「時」は患難時代の事ですが、教会は患難時代の中に入りません。ある「時」にいなくなります。

ギリシャ語で「時」を示す言葉は「クロノス」と「カイロス」。ここの「時」はカイロスです。

ギリシャ人は言葉の意味を、ギリシャ神話の中でゴチャゴチャ説明します。

カイロスはゼウスの末っ子の息子の名前。彼はウツリするような美少年。ただし髪の毛がない。前だけ生えている。キューピーマヨネーズのロゴマーク、前にクリクリっとあるけど後はツルツルテン。

これ、カイロス。カイロスは、前から来た時は前髪つかんで引き寄せられるけど、過ぎ去ってしまったら、髪がないからツルツと滑って捕える事ができない。つまり、チャンスというのは、前に向かっていて時だけ有効。過ぎ去ってしまったら、取り戻す事ができない。これがカイロス。

決定的瞬間とか機会という時に使う言葉です。

時が近づいているからである。

教会のために決定的瞬間が準備されている。それが「**携挙**」。

患難時代に入る最も大きな前兆は、世界中のクリスチャンが忽然と姿を消す事。

キリストが空中に降りて来て、その時点までに亡くなったクリスチャンは生き返って復活し、生きているクリスチャンは死なないで、新しい体に変えられて天に帰って行く。それが近づいている。

黙示録シリーズは1章から22章まで、今のところやるつもりですけど、できるかどうか分かりません。4章くらいで携挙があったら続きは…なし!

その時にまだいてはる人は、クリスチャンじゃなかったという事です。クリスチャンかどうかは、洗礼を受けているかいないかは関係ありません。洗礼を受けていてもクリスチャンじゃない人、腐るほどいますよ。また“ピー”かな。腐るほどは撤回。たくさんおられます。罪人が洗礼を受けても、濡れた罪人になっただけですよ。ただビシャビシャになっただけ。また“ピー”かな。ほんまに、儀式では救われません。

キリストを救い主として信じるとはどういう事でしょう?

黙示録 1:5 私たちを愛し、その血によって私たちを罪から解き放ち

これをして下さった方として信じるという事です。

「私たちを愛し」は継続形。ずっと愛し続けて下さっている。いつから? 信じる前からですよ。

「神なんか要らない」「神なんか信じない」と言っている時から、神はずっと愛し続けていた。

そして、遂に十字架にかかって血を流し、命を捨てる事によって、私たちを罪から解き放ち。

「解き放ち」はアオリスト態という1回きりの動詞です。つまり、クリスチャンは、永遠の命を少しずつもらうのではない。1回だけ。救われているか、救われていないかのどちらかしかない。

私のために死んで、よみがえって下さった救い主を信じる者は皆、天に引き上げられていきます。

では、地上再臨について語っているところを見て終わしましょう。

黙示録 1:7 見よ、その方は雲とともに来られる。すべての目が彼を見る。彼を突き刺した者たちさえも。地のすべての部族は 彼のゆえに胸をたたいて悲しむ。しかり、アーメン。

この7節は、ここしか読んでない人にはチンプンカンプンですが、旧約聖書のゼカリヤ書 11章を読んでいる人は「地上再臨のキリストだ」とすぐに分かります。

この地上再臨のキリストは、肉眼で見る事ができる姿で雲と共に来られます。すべての目が彼を見ると書いてあるから。

世界中の人々がこのキリストを見る時、2つのグループがあるんです。

1つ目のグループは、彼を突き刺した者たち。これは、ゼカリヤ書に書いてありますがユダヤ人の事。

このユダヤ人たちは、患難時代を通してイエス・キリストを信じたユダヤ人です。

ゼカリヤ書 11章の前半には、神から力を受けたイスラエルが、攻め込んで来る軍隊と戦争し、破竹の勢いで蹴散らしていくという事が預言されていて、その勝利の後でキリストの地上再臨を見る。

これは、またその時に見たいと思います。

もう1つのグループは、地のすべての部族。地のすべての部族は 彼のゆえに胸をたたいて悲しむ。地上再臨のキリストを見た時、何を悲しむのか? 自分が罪人である事・生き方を恥じて、悲しんでいるではありません。罪そのものを悲しんでいるのではなく、ただ罰が怖くて悲しんでいる。

